

# 日本学校音楽教育実践学会

## 第26回全国大会プログラム

- ◆主催 日本学校音楽教育実践学会
- ◆開催日 2021年(令和3年)8月21日(土)
- ◆オンライン開催 大会実行委員会：東北福祉大学  
オンライン拠点校：畿央大学

### ◆日程

|              |       |           |
|--------------|-------|-----------|
| 8月21日<br>(土) | 9:00  | 受付        |
|              | 9:30  | 自由研究 1-6  |
|              | 12:00 | 休憩        |
|              | 13:00 | 自由研究 7-11 |
|              | 15:00 | 休憩        |
|              | 15:10 | 課題研究      |
|              | 17:10 |           |
|              |       |           |

※大会に先立ち、8月20日(金)に Zoom にて、常任理事会及び合同理事会が開かれます。

### ◆大会参加要領◆

- 1 参加申し込み【8月1日(日)までの事前申し込み必須】(\*会員でない方も参加できます。)

第26回大会の参加申し込みは、会員・非会員ともに、  
右のQRコードもしくは下記URLからお申し込みください。

<https://forms.gle/Kvj55yQwNqsSZfXu9>

参加申込 →



- 2 参加費 3,000円【事前振込 8月1日(日)まで】

※当日受付はありません。下記、ゆうちょ銀行へお振込みください。)

[口座名:日本学校音楽教育実践学会] (振込手数料は、振込者ご本人の負担にてお願い致します。)

#### ◆ゆうちょ銀行から振込みの場合

記号 12130

番号 13320111

#### ◆他の金融機関から振込みの場合

店名 二一八(ニイチハチ) 店番 218

預金種目 普通預金

口座番号:1332011

※本人名義以外の通帳から入金される場合は、その旨、大会事務局にお知らせください。

- 3 連絡先

【第26回大会専用ホームページ】 <http://www.jassmep26.jp/>

【第26回大会事務局】 26ongakujissen (at) gmail.com

(at)は、@に変えてください。

#### 4 参加方法

第26回大会は、Zoom ミーティングを用いて、オンラインで実施致します。  
大会に参加される方は、事前に Zoom のアプリを、大会参加時に使用されるパソコンやタブレット等にダウンロードしておいてください。

【Zoom ダウンロードページ <https://zoom.us/download>】

**8月1日（日）までにwebでのお申込みと大会参加費の振り込みが完了されている方**に、【大会 Web 開催ホームページ】にログインするためのパスワードをお知らせ致します。【大会 Web 開催ホームページ】は、学会ホームページ (<http://jassmep.g2.xrea.com/>) からリンクを貼る予定です。

5 発表時間 自由研究は、発表 20 分、質疑 8 分 です。

自由研究の時間は、30分ごとに区切られており、発表+質疑で28分、移動時間2分です。オンライン上の自由研究発表会場ごとに、Zoom のミーティングアドレスが異なりますので、移動される方は2分の移動時間の間に、既に入られている会場から「退室」し、ご希望の会場のミーティングアドレスにアクセスして「入室」してください。**発表中の移動はご遠慮ください。**

#### 6 発表資料

各発表者が準備される当日資料は、【大会 Web 開催ホームページ】にて、大会参加者のみがダウンロードできるようにさせて頂く予定です。当日、Zoom ミーティングのチャット機能を用いた資料配布は致しませんので、各自【大会 Web 開催ホームページ】からダウンロードをお願い致します。なお、【大会 Web 開催ホームページ】は、大会前日に開設予定です。

#### 7 注意事項

課題研究及び自由研究発表を**録画・録音（オンライン発表画面のスクショ等を含む）**することは、ご自分の発表を含めて**一切禁止**とさせていただきますので、ご理解頂きますよう、よろしくお願い致します。

\* 日本学校音楽教育実践学会の書籍及びDVDを販売しております。お買い求めの方は、学会事務局へご連絡ください。

『音楽教育実践学事典』(音楽之友社)定価 3456 円 →学会価格 2800 円

学校音楽教育実践シリーズ『思春期の発達の特性と音楽教育』(音楽之友社)定価 2000 円→学会価格 1700 円

『音楽科カリキュラムと授業実践の国際比較』(音楽之友社)定価 3150 円→学会価格 2700 円

『生成を原理とする 21 世紀音楽カリキュラム』(東京書籍) DVD のみ 2000 円

## 自由研究 1

司会 水野 伸子(愛知東邦大学)

- 9:30 幼児の音楽的表現の発展度に寄与する動作特徴量  
 -4年間の動作解析結果に基づいて-  
 佐野 美奈(常葉大学)
- 10:00 幼児の集団活動における表現の形成と教師の役割  
 -絵本を用いた多媒体による表現活動の実践から  
 三輪 雅美(名古屋柳城女子大学)
- 10:30 子どもの創造力を促す表現遊び  
 -歌を基点として-  
 日笠 みどり(関西保育福祉専門学校)
- 11:00 レッジョ・エミアの「音のシステム モノの声」の実践映像の分析  
 -構成活動を視点として-  
 矢倉 瞳(大阪成蹊大学)
- 11:30 幼小接続期における音楽科のあり方  
 平出 久美子(新潟大学附属長岡小学校)

## 自由研究 2

司会 坂本 暁美(四天王寺大学)

- 9:30 保育教員養成におけるピアノ弾き歌い学習のための動画補助教材の有効性  
 -オンライン授業に対応可能なピアノ実技指導のための動画教材が及ぼす効果-  
 高崎 展好(環太平洋大学)
- 10:00 保育者・教員養成校の学生を対象とした音楽に関する意識調査と実践的取り組みへの展開  
 -弾き歌いの経験を通じた意識の変容を中心に-  
 二宮 貴之(聖隷クリストファー大学)
- 10:30 保育者養成教育として対話型ピアノ授業における教師の「言葉かけ」の分析  
 小栗 祐子(東海学院大学)
- 11:00 Microsoft forms を活用した音楽科の授業づくりに関する実践的研究  
 齊藤 淳子(川口短期大学)
- 11:30 音名と階名を区別しその関係を理解するための教材の工夫  
 -幼稚園及び小学校の教員養成における試みを通して-  
 山本 幸正(埼玉学園大学)

自由研究 3

司会 多賀 秀紀(富山大学)

- 9:30 モンゴルの音楽を教材とした既習の子どもが対象の授業方法の検討  
○阿斯罕(北海道教育大学旭川校大学院生)  
芳賀 均(北海道教育大学旭川校)  
大野 紗依(新冠町立新冠小学校)  
芳賀 真衣(浜頓別町立浜頓別小学校)
- 10:00 音楽鑑賞授業における視聴活動と体験活動の比較  
森保 尚美(広島女学院大学)
- 10:30 鑑賞における教材の提示方法が学習活動に与える影響  
佐藤 和貴(東北生活文化大学短期大学部)
- 11:00 音楽の認識内容にみられる発達特性  
—小3・小6・中3同一教材による鑑賞授業の分析を通して—  
清村 百合子(京都教育大学)
- 11:30 音楽観の拡大を目指した鑑賞の授業実践に関する一考察  
—「生活や社会の中の音や音楽」に注目して—  
松宮 利佳(福井大学教育学部附属義務教育学校後期課程)

自由研究 4

司会 加藤 柚乃(京都府京田辺市立松井ヶ丘小学校)

- 9:30 4年生《さくらさくら》の歌唱指導  
—自分のイメージを表現できるように—  
島本 政志(大阪教育大学附属平野小学校)
- 10:00 歌唱表現のイメージを伝え合う状況を成立させる要因の検討  
—《箱根八里》を教材とした高等学校音楽科歌唱分野の授業の分析—  
○横山 真理(東海学園大学)・鈴木 健司(東海高等学校)
- 10:30 歌唱表現学習におけるリモート歌唱の効果と課題  
—中学校・高等学校での教育実践を通して—  
宮澤 多英子(川口短期大学)
- 11:00 器楽授業での多媒体を用いた表現における媒体の関連  
渡邊 真一郎(畿央大学)
- 11:30 高学年児童の器楽合奏にみる主体性と協働性  
—児童の音楽嗜好に着目して—  
齋藤 理加(福井県南越前町立今庄小学校)

## 自由研究 5

司会 桐原 礼(信州大学)

- 9:30 ハンガリーの音楽教育における「韻をふむ歌(chanting rhymes)」の重要性  
小谷 朋子(常磐会短期大学)
- 10:00 小学校音楽教育における北インド古典音楽の有意義性  
ーTASモデルを使った実践を通してー  
井上 希美(京都市立上高野小学校)
- 10:30 日中両国の「同課異構」の授業実践交流から見た音楽教員の資質能力向上について  
の一考察  
董 芳勝(創価大学)
- 11:00 イタリアとフランスのソルフェージュの歴史  
玉護 眞理子(岐阜大学・非常勤)
- 11:30 ドイツの音楽科における「生活や社会の中の音や音楽」に関する調査研究  
ー政治と音楽とのかかわりを視点としてー  
中島 卓郎(信州大学)

## 自由研究 6

司会 三橋 さゆり(埼玉大学)

- 9:30 保育者養成における総合的な音楽表現の学び  
ードラムジカ制作を通してー  
藤田 桂子(名古屋文化学園保育専門学校)
- 10:00 表現を育む授業実践の一考察  
ー保育の活動を視野に入れてー  
山岸 多恵(兵庫教育大学・非常勤)
- 10:30 はじめての楽器、音楽に触れる体験  
ー保育者養成課程の授業実践よりー  
山本 華子(小田原短期大学)
- 11:00 ICTを活用した対話型創作による総合表現の試み  
ー経験・絵・わらべうた・即興性を手がかりにー  
長谷川 真由(大阪音楽大学)
- 11:30 保育カリキュラム改訂による音楽科目の再考(3)  
若谷 啓子(帝京大学)

自由研究 7

司会 大和 賛(大阪府阪南市立貝掛中学校)

- 13:00 中学校音楽科におけるコダーイアプローチを用いた実践  
清水 直子(目白研心中学校・高等学校)
- 13:30 サイン音を題材にした授業についての一考察  
出村 志織(石川県立津幡高等学校)
- 14:00 マンガを教材とする音楽科の学びの可能性  
ー自動作曲アプリで描く「鬼滅の刃」の1シーンからー  
吉村 治広(福井大学)
- 14:30 ICTを用いた子どもの歌の指導とその研究  
河合 玲子(名古屋女子大学短期大学部)

自由研究 8

司会 野上 華子(京都教育大学附属桃山中学校)

- 13:00 「伝統や文化」を取り入れた小学校音楽科授業の開発と検討  
ー文化価値の生成に着目してー  
桐山 由香(和歌山信愛大学)
- 13:30 小学校音楽科における鑑賞の題材構想と指導の工夫  
ー第3学年「音を色で感じて、お囃子のひみつを考えよう」の実践を通してー  
岡橋 智栄美(香川大学教育学部附属高松小学校)
- 14:00 鑑賞教育における音楽的思考と文化理解  
ー作曲家新聞作成の実践からー  
安藤 江里(松本大学)
- 14:30 中学校音楽科鑑賞領域の授業における文化的側面への理解を促す意義についての一考察  
ー日本の民謡を教材とした実践事例の分析ー  
永井 美由紀(岐阜県大垣市立江並中学校)

## 自由研究 9

司会 洞 孔美子(大阪府立枚方支援学校)

- 13:00 インクルーシブ教育と音楽科教育との関係  
井上 薫(大阪府藤井寺市立道明寺南小学校)
- 13:30 インクルーシブ教育理念に基づく音楽教育実践  
—個別の教育的ニーズに応じた器楽教材曲の開発とその指導—  
永杉 理恵(東京大学大学院教育学研究科院生)
- 14:00 教科等横断的な学習として「運動会」の団体演技を関連させた音楽科鑑賞授業における子どもの表現の発展  
石光 政徳(大阪府池田市立緑丘小学校)
- 14:30 小学校音楽教育における常時活動と学級経営の関わり  
江上 加奈恵(愛知県あま市立篠田小学校)

## 自由研究 10

司会 笹野 恵理子(立命館大学)

- 13:00 教員養成大学における能の授業に関する一考察  
—学生の活動とアンケートを通して—  
中西 紗織(北海道教育大学)
- 13:30 音楽科教員養成におけるオンライン授業の試み  
—「楽式論」の授業実践—  
望月 たけ美(常葉大学)
- 14:00 「音楽科指導法」におけるリモート合唱による実践指導について  
—コロナ禍の制限から可能性へ—  
園田 葉子(大阪音楽大学)
- 14:30 小学校教員養成課程における拍とリズムの基礎的習得について  
宮 祐子(東京家政大学)

自由研究 11

司会 古山 典子(福山市立大学)

13:00 生田五郎の音楽教育観

—大正期 大分県師範学校附属小主事時代について—

松園 聡美(中村学園大学短期大学部)

13:30 音楽教育哲学に関する研究の動向

堀上 みどり(環太平洋大学)

14:00 教員免許状更新講習の内容構築に関する一考察

—内容の検証と音楽科教員の資質・能力の視点から—

岡田 知也(香川大学)

14:30 保育者養成校における実習に向けた音楽活動

岸 久美子(聖徳大学大学院生)

## 課題研究

15:10 - 17:10

**音楽科で育成すべき資質・能力とその評価**  
**ー生成の原理に基づく音楽科授業ー**  
 その5 パフォーマンス・スタンダードを活用した評価の実際

## ●趣旨

「生成の原理に基づいた音楽科授業ではどのような資質・能力が育成されるのか」をテーマにスタートした本課題研究は今年で最終年次を迎える。第1年次では資質・能力にかかわるわが国および諸外国の動向を概観、第2年次では生成の原理に基づく音楽科授業で育成される資質・能力について理論的枠組みと実践モデルを提示、第3年次では資質・能力を『スタンダード』として示し、平成29年告示学習指導要領に示されている資質・能力との相違点を明確化、第4年次ではパフォーマンス・スタンダードの妥当性について、実践を通して検証してきた。

最終年次の今年には音楽科における資質・能力をどのように評価すればよいのか、パフォーマンス・スタンダードを活用した評価実践について提案する。現行の評価の三観点よりスタンダードをとらえ直し、スタンダードに基づいて評価計画を立て授業実践を行う。そして実践から見えてきた評価結果について考察する。

スタンダードを意識したことによって見えてきたものは何か、またスタンダードを意識したことで評価あるいは音楽科授業はどう変わったのか、議論する。

## ●内容

司会 福士 幸雄(岩手県矢巾町立矢巾中学校)

## 1 教育実践における評価とその意義

西岡 加名恵(京都大学)

## 2 パフォーマンス・スタンダードを活用した評価

衛藤 晶子(畿央大学)

## 3 パフォーマンス・スタンダードを活用した評価の実際

小学校:鑑賞《春の海》

高橋 詩穂(京都教育大学附属桃山小学校)

高等学校:歌唱《箱根八里》

鈴木 健司(東海中学校)

## 4 パネル・ディスカッション

「パフォーマンス・スタンダードを活用した評価の可能性」

西岡 加名恵・高橋 詩穂・鈴木 健司・横山 真理(東海学園大学)

進行:清村 百合子(京都教育大学)

## 5 まとめ